令和６年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（　奈良県　）

## １．調査研究のテーマ、概要

| 調査研究のテーマ | 地域教材を活かした人権学習の指導の在り方 |
|---|---|

〇調査研究のテーマを設定した目的

「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）～指導等の在り方編～」では効果的な学習教材の選定・開発について「人権が尊重される社会づくりを自らの問題としてとらえ、自ら考えることができるようにするなどの教育効果を高めるため、身近な事柄を取り上げたり、児童生徒の興味・関心を活かしたりするといった教材の内容面での創意工夫を行う」ことの重要性が記されている。本県の研究調査のテーマである地域教材を活かした人権学習の充実は、生活や地域に根ざした身近な人権課題を提起するものであるだけに、自分の問題として捉えて考えることができ、その解決に向けて創造的に取り組む意識や態度を育てるためにも効果的であると考える。令和５年度から「地域教材を出発点とした人権学習の指導の在り方」を研究調査テーマに研究調査を行っている研究指定校では、地域の先人「忍性」をテーマとした紙芝居を作成し、学校行事等で発表を行った。また、紙芝居の発表をきっかけに「忍性」の業績や生き方に学ぶことをとおして、子どもたちが自己の生き方を考え、主体的に生きる力の育成を図った。その結果、子どもたちが自主的に話し合いを行ったり、生徒会活動に主体的に取り組む姿が見えたりするなどの子どもたちの変容が見られるようになった。さらに、研究指定校が独自で行ったアンケートの質問項目「自分の考えを深めたり、学級やグループでの話し合ったりする活動に取り組んでいる」の回答結果が約１０ポイント増加するなど、子どもたちの意識の変化も見られるようになった。

また、研究指定校では、「忍性」をテーマとした取組と重ねて「ハンセン病問題」についても学習を進めた。研究指定校が生徒を対象に独自で行ったアンケートの「ハンセン病問題は自分に関係のあることだ」という質問に対して、肯定的な回答が学習前より２８．３ポイント増加した。このように１年間の調査研究をとおして、多くの生徒がハンセン病問題を自分の問題と捉えることができたことも成果であると考える。

このような成果が見られたことから、令和６年度は「同和問題」をテーマとした地域に根ざした教材を活用し、子どもたちが人権に関する正しい理解や認識をもち、それらを現実の生活や自己の行動に生かしていこうとする意識や態度の育成につなげたいと考える。

そこで、地域教材を活用した具体的な実践を通して、人権教育を教育活動全般を通じて

推進するため「地域教材を活かした人権学習の指導の在り方」をテーマとして、実践研究指定校による継続した調査研究を行いたいと考えている。

〇調査研究の概要

　観念的・一般的な学習に陥りがちな人権問題についての学習を身近でリアルなものとして根づかせるため、地域教材を活用した指導方法の研究を行う。そのことをとおして、児童生徒が人権問題と自分とのかかわりを学び、「他から学ぶ吸収力や柔軟性、謙虚さをもった生徒」「人権問題を自分事に受け止められる生徒」「将来人権問題に直面した時に解決のために行動できる生徒」を育てる。

## ２．基本情報

研究指定校の概要

〇学校名

川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

〇これまでの研究指定等の状況

令和５年度「人権教育研究指定校事業」公開授業

〇学級数

令和５年度１４学級（うち特別支援学級５学級）

〇児童生徒数

令和５年度３１７人（令和６年１月２５日現在）

〇URL

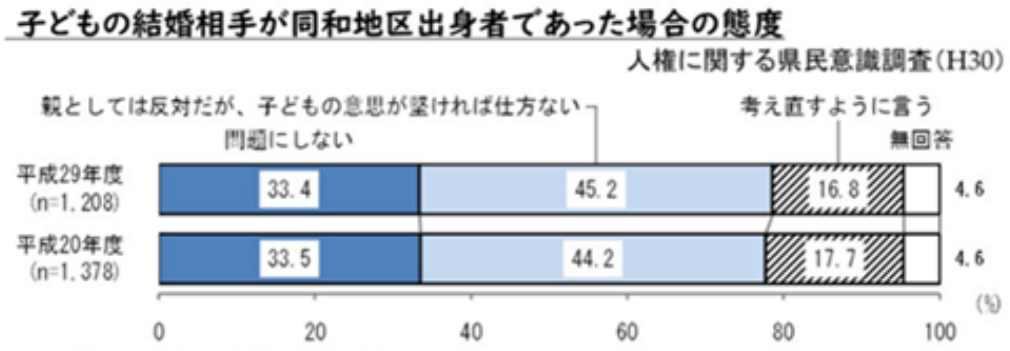
https://shikige-jh.edumap.jp/

〇指定理由

平成３０年に県が実施した「人権に関する県民意識調査」において同和地区出身者に対しての県民意識は、資料のとおり１０年前とほとんど変わっていない。また、本県では特に若者の部落問題に対する理解の希薄化が同和問題（部落差別）における課題の１つとして挙げられる。県では平成３１年３月に「奈良県部落差別の解消に関する条例」を制定し、地方公共団体による教育の取組を強く求めた。このことを踏まえて県教育委員会では部落問題学習についての教職員の資質と実践力の向上を目的として、令和２年度から令和５年度において「部落問題の解消に向けた教育支援事業」を行い、校種別指導者用資料の作成・配布と教職員向け部落問題学習に関する研修を実施している。

研究指定校では、令和５年度に地域で作成された読み物「忍性さん～笑顔のお坊さん～」を活用した指導計画や指導案の実用性を高めるための研究調査を重ねた。そしてその取組を令和６年度に部落問題学習につなげようと計画をした。ハンセン病問題における回復者への忌避意識やそれに基づく偏見や差別は、同和地区出身者への県民の意識とも共通するものがある。そのため、研究指定校が計画している調査研究を行い、その成果を県内に周知することは、本県教育委員会が目指している部落問題学習における教職員の資質と実践力の向上につながると考えている。県教育委員会と川西町教育委員会、研究指定校が協働して調査研究を円滑に進め、より効果的で実践的な調査研究を行っていきたいと考えた。

（資料）


子どもの結婚相手が同和地区出身者であった場合の態度
人権に関する県民意識調査（H30）
親としては反対だが、子どもの意思が堅ければ仕方ない
問題にしない
考え直すように言う
無回答
平成29年度
(n=1,208)
33.4
45.2
16.8
4.6
平成20年度
(n=1,378)
33.5
44.2
17.7
4.6
(%)
0
20
40
60
80
100

## 3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「２．事業の内容」を必ず確認すること。

| | |
|---|---|
| ① 子供 | ○ |
| ② 女性 | |
| ③ 高齢者 | |
| ④ 障害者 | ○ |
| ⑤ 同和問題 | ○ |
| ⑥ アイヌの人々 | |
| ⑦ 外国人 | |
| ⑧ -１HIV 感染者等 | |
| ⑧ -２ハンセン病患者等 | ◎ |
| ⑨ 刑を終えて出所した人 | |
| ⑩ 犯罪被害者等 | |
| ⑪ インターネットによる人権侵害 | ○ |
| ⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等 | |
| ⑬ 性的指向、性自認 | ○ |
| ⑭ その他（　　） | |

## 4. 調査研究の内容等

〇調査研究の内容

人は、他者との関わりの中で多くのことを学び成長するが、子どもの頃より多様な人々と出会い対話することにより、一人一人が異なる個性や生活背景をもち、様々な思いや願いを抱いていることを知ることができる。そのことを通して、相手の立場に立って考える力や相手に共感しありのままに受け止めようとする態度も育っていくものと思われる。研究指定校では令和５年度において、映画制作者や大学教授など、ハンセン病問題をテーマに活動されている講師と出会い、講師の生き方や考えに触れた。そのことから自分自身のこれまでの生い立ちを振り返り、今後の生き方について考えることができた。

令和６年度は令和５年度の学習をもとに、ハンセン病問題に加えて同和問題についても学習を進めた。具体的には中学校夜間学級に通われている生徒さんとの出会いをとおして奪われた文字を取り戻すことをされた方々の思いに触れる活動を展開する。不確かな情報やデマに影響を受け、当事者との関わりを避け、排除してしまうという人の弱さについては、ハンセン病問題と同和問題に共通していることである。その人の弱さについて生徒が気づき、自己の生き方について考える取組について研究を行った。

〇実施方法

研究指定校においては、以下の方法で実施した。

（指導の充実に向けて）

・主にハンセン病問題、同和問題についてアンケートを実施し、生徒の認知度を把握した。

・研究授業、研究討議を行い、指導のねらいや学習展開について振り返るとともに、現状における生徒の実態分析、指導計画の追加修正を行った。

・部落問題学習についての取組を進める上で、まず教職員が部落問題について認識を深めるとともに、その解決に向かう実践者の一人であるという自覚が必要である。講師を招聘し職員研修を行い、部落問題について教職員の認識と解決に向かう意識を高めた。

（集団づくりの推進）

生徒が自己を肯定的に受け止め、自己実現に向けて主体的に行動できるようになるためには、自他の人権を守り、お互いの人権を尊重し合う集団づくりが重要である。集団づくりを推進するため次のことを実施した。

・各教科・領域において、ロールプレイやペア学習などのグループ学習等を積極的に取り入れ、参加型・体験型・協力型の学習活動の充実を図った。

・互いを認め合い、多様性を尊重する集団づくりのために必要な「聴き合い、学び合い」を通した授業の展開について職員研修を行った。

○検証・評価・改善・普及

「研究指定校が行なった、令和６年度ハンセン病問題の取組前後で認識度を把握するためのアンケート結果」

| | 「できない」０　１　２　３　４　５　「できる」 | |
|---|---|---|
| 忍性さんについて自分なりに紹介することができる。 | ９３％　→　３２％ | ７％　→　６８％ |
| ハンセン病はどのような病気か自分なりに説明することができる。 | ９０％　→　１５％ | １０％　→　８５％ |
| ハンセン病にどのような歴史があるのか自分なりに話すことができる。 | ９２％　→　２１％ | ８％　→　７９％ |

| | 思わない | その他(選べない) | 思う |
|---|---|---|---|
| ハンセン病は「自分に関係のあること」だと思う。 | ５９％　→　２３％ | ２％ | ４１％　→７５％ |

取組の前に行ったアンケートでは、忍性さんやハンセン病について説明できると答えた生徒は１０％以下であった。また、ほとんどの生徒が「昔のことだから」「知らないから」「学校で習わないから」といった理由でハンセン病問題を自分には関係のない他人事と認識していた。取組後のアンケート結果からは、病気の知識や歴史を学び、回復者の方と出会ったことで、ハンセン病問題を単なる過去の出来事ではなく、自分にも関係のある社会全体の課題として捉える生徒が増えた。しかし、「出会い」「深める」ことはできたが、ハンセン病問題について「伝える」ことについては今後の課題である。ハンセン病に対する差別や偏見が今もあることを学んだうえで自分にできることを考え、学びをどう生かすか、社会にどのように伝えていくのかという視点も押さえながら生徒が発信する機会を設けていきたい。

## 5. 人権教育にかかる年間計画

【１年】

学年目標

ア）お互いの違いやよさを認め合い、自分の「思い」や「考え」を伝えることができ、他者の気持ちを理解することができるなかまづくりを進める。

イ）自分たちの身のまわりに存在する不合理・矛盾や差別に気づき、よりよい社会の実現に向けて考え行動できる姿勢を培う。

１学期

【ふるさと学習】

①「なかまづくり」

・お互いの違いやよさを認め合い、豊かな人間関係の作り方について学ぶ。

②「地域学習」

・自分の住んでいる地域の良さを知り、語ることのできる力を培う。

③「障がい者理解」

・支援を要する人について学び、ともに生きる社会づくりの一歩として、安心して過ごすことができる学校、社会作りについて考える。

２学期

④「識字学級」

・３５年目のラブレター

⑤「地域の産業」（キャリア教育）

・奈良県や地域の産業を知り、語ることのできる力を培う。

⑥「地域学習 partⅡ」

⑦「人権学習」

・様々な人の立場や考え方、歴史的背景を理解し、正しい判断や行動ができるための基礎を培う。

３学期

⑧「地域にゆかりの偉人に学ぶ１」

・世阿弥の生き方や書物を通して、地域の特徴を探る。

⑨「性の多様性」

【２年】

学年目標

ア）人として最低限のルールや礼儀を身につけ、相手の立場に立って行動したり助け合ったりできる態度を培う。

イ）自分自身の生き方や将来の夢について主体的に考え、自らの進路を自らの力で切り拓くことのできる能力を培う。

1学期

①「なかまづくり」

・お互いの違いやよさを認め合い、豊かな人間関係の作り方について学ぶ。

・校外学習を通して、自分の役割に責任をもって果たすこと、他者と協調し合ってものごとを達成すること、相手の立場に立って考え行動することを学ぶ。

②「地域にゆかりのある偉人に学ぶ」

・忍性さんのとった行動をモデルとして自分の生き方について考える。

③「職業観」

・職業について理解し、望ましい職業観を身につける。

2学期

④「職業観」

・社会で生きていくための最低限の人としてのモラルやマナーを身につける。

・世の中へ出て働くということはどういうことかを理解し、進路選択を現実のものとして捉えさせる。

・自分の適正や将来の生き方について考え、希望する将来を実現させるために努力しようとする態度を培う。

⑤「ハンセン病問題」

・ハンセン病問題について学習し、その歴史的背景や現在社会における差別の現状を学習する。

3学期

⑥「平和学習」

・戦争の歴史を振り返り、平和の尊さと戦争の悲惨さを考えさせるとともに、過ちを二度と繰り返さないために、自分たちにできることは何かを考え、平和な社会を築こうとする態度を育む。

【3年】

学年目標

ア）お互いの人権を認め合い、一人ひとりの「思い」を理解し合いながら、共に生き、育つ、仲間集団になる。

イ）自分の進路を見据えて、身の回りにある不条理、矛盾や差別に気づき、それらに立ち向かう力を培う。

1学期

①なかまづくり

・自分の思いをきちんと言葉で伝え、相手の話を落ち着いて聞く姿勢を身につける。

・周囲の気持ちを考えて行動できる心を育てる。

②平和学習

・戦争の歴史を振り返り、平和の尊さと戦争の悲惨さを考えさせるとともに、過ちを二度と繰り返さないために、自分たちにできることは何かを考え、平和な社会を築こうとする態度を育む。

③ 「人権学習」

・人権問題について学習しその歴史的背景や現在社会における差別の現状を学習する。

・差別や偏見のない社会を実現するために自分たちができることは何かを考え実践しようとする態度を育む。

2学期

④進路選択に向けて

・自分の希望や特技、適性などに向き合いながら、自ら進路を切りひらいていく力を身につける。

・希望を実現させるために、お互いに支え合える仲間集団になる。

3学期

⑤3年間のまとめ

・3年間で学習したことを通して、世の中の矛盾点や差別に気づき、考え、行動できる力を自身の中に育てる

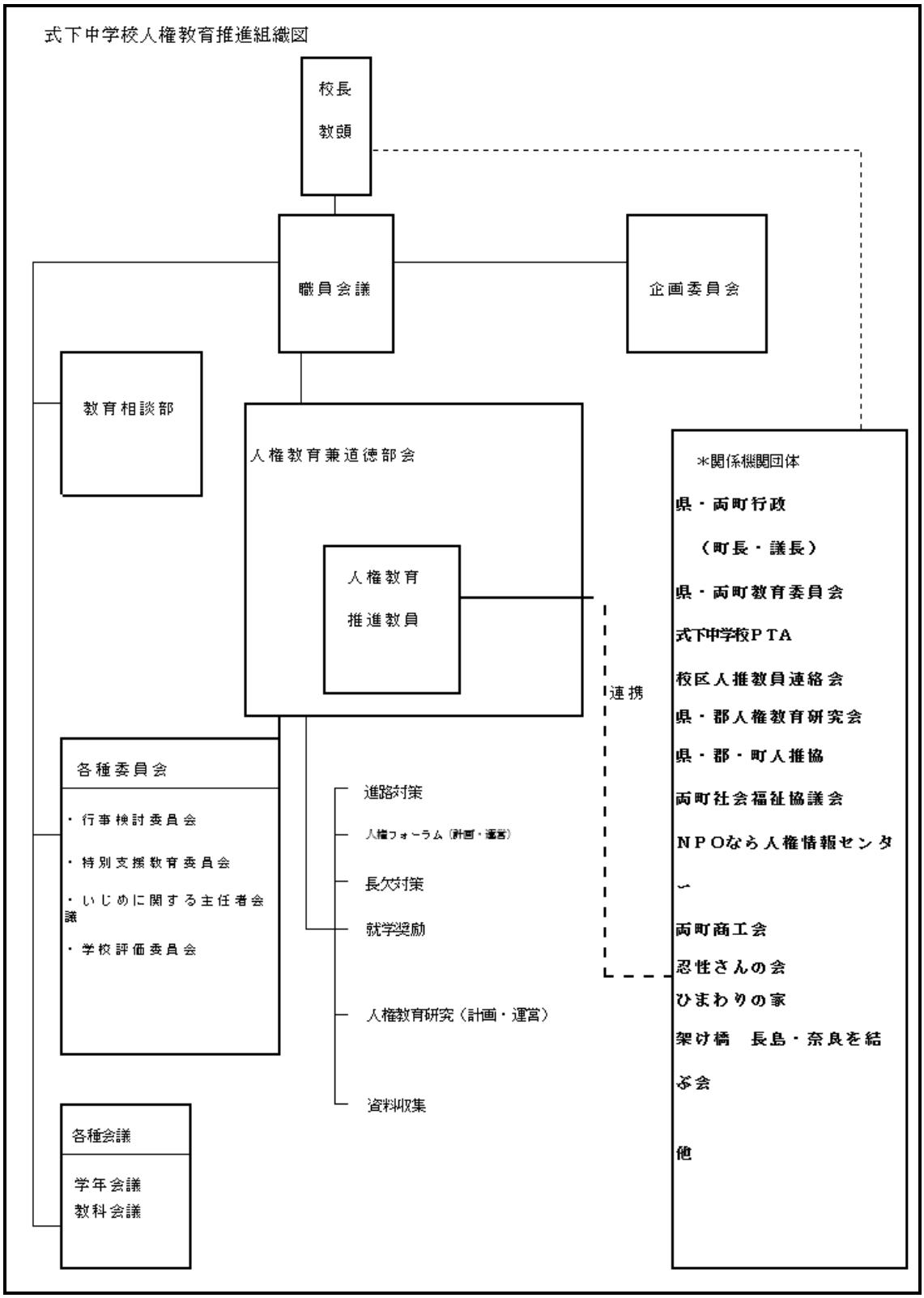
【全学年共通】

7月に「ネットトラブル防止教室」や「交通安全教室」、「生と性の講演会」を開催し、12月には、「エル・プロジェクト講演会」として、「いのち・愛・人権」をテーマとしてのゲストを招いての講演会等を開催予定。

これらの取組を通して、自他の存在（尊敬と感謝によるつながり）を大切にする生徒を育てることと、日頃の言動とインターネットを介した受信・発信時に人権に配慮で

きるリテラシーと表現力を身につけさせること、生徒の主体性を育成すること、それがこれらの取組を貫くねらいである。

＊エル・プロジェクトとは

「いのち・愛・人権」をテーマとした生徒会事業を応援する取組で、各分野で活躍されているゲストから生き方を学ぶことと生徒が運営にも参加することによってリーダー性を育てることを目的としている。いのち(Life)、　愛(Love)、人権(Liberty)、リーダー(Leader)の頭文字をとって、エル・プロジェクトと名付けた。人権は、「human rights」が一般的だが、ここでは「差別とたたかい獲得した自由」を意味する「Liberty」を採用した。

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）